



菱濁用水の恩人 柏堆次郎のこと

荒木

宏さん(和泉・農業・69歳)

文久二年(一八六二年)、下
木山の名主柏堆次郎は植え付け
た青田が日照りで干上がり、色
を失っていくのを憂いていた。
堆次郎は菱濁地内に樋管を敷設
して信濃川の水を引き、農民を
救おうと、文久三年(一八六三
年)藩に願ひ出した。

地元ではかなりの反対があつ
たようである。堆次郎は地元民
の説得に血と汗を流した。樋管

の敷設について、地元農民との
契約では「一滴でも漏れた場合
は、直ちに大工と堆次郎をた
たき殺す」とのこと。堆次郎は
工事に出掛ける当日、仏前に灯
明を上げて祖先に別れを告げ、
家族には遺言もなく、肌を掻か
たびらを着け、左腕に数珠を掛
け、水杯を交わして、生きて帰
らぬと、大工と共に出発した。
角棒を持った百五十人余りが見
守る中で工事は進められ、漏水
することなく無事に伏せ込みが
終わったときには、神にも祈る
思いであったという。慶応元年
(一八六五年)、菱濁用水はよ
うやく完成し、五百余町部に及
ぶ小林地域の耕地が恩恵に浴し
たのである。

市民談話室

原稿募集

9月1日号の原稿を募集します。皆さんが
日ごろ考えていることや身近な出来事など、
気軽に投稿してください。字数は400字から
500字程度とします。あて先は、〒950-12
白根市大字白根1235 白根市役所 企画調整
課 広報広聴係 (☎373-2111) (F333) です。



柏堆次郎の碑

堆次郎はその後、大津分水
路の必要性を説き、古川の名主
田沢与左衛門らと力を合わせて
家財を投じて尽力した。しかし
工事は中断され、請願を続けた
堆次郎であったが取り上げられ
ず、志半ばにして惜しくも明治
十六年三月十三日に亡くなった。
地区民挙げて堆次郎の霊を慰
めようと、明治二十六年八月十

三日に碑を建て、とこしえにそ
の功績をたたえた。二百三十人
余りの参列者があり、盛大な祭
典が営まれたという。
堆次郎の娘(現存誠四郎の母)
が昭和三十年、九十歳で書き残
した遺書が住居の改築の折に発
見されたこと、先日東京西日暮里
から連絡があったので、堆次郎
について紹介させていただいた。



子育てを楽しむ 心のゆとりを

内山 文恵さん(阜月町・主婦・26歳)

私は現在三歳の娘と六カ月の
息子の子育てに追われて、毎日
毎日があつという間に過ぎてい
きます。

かげんにしてよ」と怒鳴ってし
まうことも多々あります。その
たびに、子供と一緒に楽しめる
心のゆとりが持てたらいのに
と思うのですが、なかなかうま
くいきません。

今年から保育園に通い始めた
娘は、毎日新しい発見や楽しい
触れ合いがいっぱいで、帰って
くるなり「お母さん、あのね...」
とお話してくれたり、おもし
ろい歌を覚えてきて歌ってくれ
たりします。六カ月の息子の方
は、寝返りが楽しらしく、コ
ロコロ転がったり、床を蹴って
バタバタと進んだりして、私の
目を楽ませてくれます。

幸い近所に同じくくらの子供
を持つ人もいますので、相談に乗
ってもらったり、ぐちを言い合
ったり、子供同士遊んだりして
気分転換を図れるので恵まれて
いると思います。

でも子育ては想像以上に大変
で、夜中の授乳や夜泣きで寝不
足の日が続いたり、娘のいたず
らやわがままに振り回されて、
イライラが爆発。「もう、いい

ただ、できれば大通地区のよ
うに「おやお劇場」や「遊びの
教室」など、親子一緒に楽しめ
る催し物が、カルチャーセンタ
ーなどでも行われると、もっと
交際範囲も広がり、気持ちにも
ゆとりができていいだろうなと
思います。



樺太残留日本人一時帰国団 川瀬信子さんを訪ねて

石沢

隆さん(下赤浜・自営業・58歳)

五月二日の新聞、テレビでサ
ハリン元樺太残留日本人の第五
次集団一時帰国団の来日を報じ
ていた。新潟県へは五月一日、
三人が北海道から空路で新潟入
りした。その中の川瀬信子さん
(五十七歳)がいとこである村
松町の斎藤秀雄さん宅へ来ると
いう。私は四十六年前を思い出
し、無性に会って話をしてみた
くなった。斎藤さんへ連絡し、
五月七日にお会いできた。

縁が私たちより遅く届き、親子
六人が汽車に乗り遅れて帰るこ
とができなかった。その後爆撃
があり、豊原市内は火の海とな
り、やがてロシア軍が入ってきた。
日本人の男性はいないまま、
青春時代もなく過ごし、安らぐ
こともなく働き続けてきた川瀬
さん。同じ日本人としてこんな
ことであるのかと考えさせら
れた。

私は樺太豊原市で生まれ、昭
和二十年八月十七日に豊原市を
引き揚げ、八月二十三日に新津
駅へ着いた。当時十二歳だった。
川瀬さんと会い、子供のころ
を思い出して涙を流しながら語
り合った。川瀬さんは海岸端の
蘭泊で生まれた。引き揚げの連

川瀬さんは現在豊原市に住み、
ご主人は韓国人で子供が四人、
孫が八人。母親は亡くなったと
のこと。豊原市の話や、郊外
の工場(王子製紙)があり、その
隣の製糖会社(明治精糖)も昔
のまま操業しているという。



豊原市から真岡町まで幅二十
メートルの広い軍用道路が走っ
ていたのだが、子供のころスキ
ーやスケートで遊んだ思い出が
ある。「今、その道路は舗装道
路ですか」と尋ねたが、川瀬さ
んは舗装道路が分からない。道
路には玉砂利、石ころがあると
のこと。舗装されていない昔の
ままかと思う。現在は娯楽施設
もないという。



「異変」に思つ 小さな一歩から

真保喜三雄さん(水道町・会社員・43歳)

現在の生活食料は米の配給が
一カ月に一人四百グラム。それ
をどのようにして食べているの
だろう。年寄りや子供にはジャ
ガ芋やカボチャを入れて食べさ
せ、信子さんたちは固いパンな
どを食べているという。川瀬さ
んは「日本はいいね。こんなに
おいしいご飯が毎日いただける。

来て良かった。帰ったらおいし
いご飯をみんなに食べさせたい」と
涙をふいていた。「日本はいい
なあ」と涙ぐむ川瀬さんを見
ながら、ロシア、サハリンは物
資がなく、大変な生活をしてい
るのだと思つた。

風薫るさわやかな日々が続い
ておりますが、最近では異常気
象と思われることが多いよう
です。海外ではパリやブラジルで
大洪水に見舞われ、メキシコで
は車などの排気ガスで大気汚染
が進み、先進国に追い付け追
越せとばかりに環境問題になつ
ています。そこでは呼吸器系の
疾患、ぜんそくや咳が止まらな
いなどの症状が多く、緊急用の
酸素ボンベの需要が多くなつて
いるのが実態です。

昭和五十四年六月一日制定さ
れた「白根市民憲章」の中でも
いわれているように「美しい自
然のあるまち」「健康で働く豊
かなまち」「創意と工夫をこら
す」というように緑多く暮らし
良いまちづくり、地域づくりを
考えている今日です。皆さんは
いかがなものでしょうか。大き
な課題であるとあきらめず、ま
ず小さな一歩。物を大切にす
る心で、異変解消に向けてとも
努めようではありませんか。

人間が呼吸をして生命を維持
していくためには、酸素を吸収
して炭酸ガス(二酸化炭素)を
体外に排出するというように、
ガス交換を常時行っています。
人間にとつていかに浄化された
酸素が必要かということが分か
ります。ですから、例えば有害

夕茜大妻秋となりけり 豊木サダ子
六月の陽の落ちかけてより長し 安沢 飛浪
そばへ降る日差しまぶしき袋掛け 山田 孝
種豆を隣家と換へて種五しなり 木村 トリ
竹皮を脱ぐ逡巡のありにけり 樋口 トシ
何事も嬉々夫随や縁結ぶ 公條 雪夫
草笛のよく鳴る草を選びけり 小林 すみ
通学帽見え隠れして妻の秋 和泉 伸子
短夜の登山の客を占める宿 和泉 伸子
盲目の三味線青葉揺がせし 笠原 里津
(以上大風会)

市民文芸

併句
朝顔の咲く花待ちつ朝夕に
愛して水やり根本見つむる 小出よし
デイズニールランドへ連れ行く「お
どうさんすき」とある
短冊の字の漸々読む 中村 京
置業幾品種もの持巡り

隣続きに空き箱を見ゆ 長谷川久二
戦の世すでに果てしと思ひしが
生き長らへて五十年は過ぐ 小出熊四郎
川柳
歯車が合ぬ日もある老いの坂 早川 英男
嘘ひとつ付いて奥歯が噛み合わぬ 山岡 フミ
根っからの悪人でない歯が白い 吉川 彰
週休二日昼間のパパがもて余す 米野 光雄
幾山河黒子の妻に支えられ 今井 七郎
ヤジロベエ支点は細い妻の腕 織田 福治
歯が抜けて不吉クラスが鳴いて居る 織田 セツ
役好きへ役がなかなか回らない 後藤マサノ
ベッドタウン田んぼは声もなく埋まる 佐藤トミノ
障子にも目と耳がある咳払い 佐藤 コキ
沖に出てからだまし船向きを変え 高橋祐四雄
埋もれ火が生命の続きを握り立てる 竹石 甚五
ふとこころに狙い定めた花名刺 田中 成子
役付きの艶苦勞を持ち歩く 田村 恒夫
PKO支援の歌を捜索中 中村 尚治
日本地図サメの歯型がまだ消えず 長井 徳市
生徒には堀びぬ指導を教われ 西条 ムラ